

令和4年10月28日
(2022年)

保護者の皆さまへ

吹田市立第一中学校
校長 平山 ちさと

令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・数学及び今年度は理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生だけではなく、学校全体として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を進めることができるようICTを活用しながら、探求的な学習や体験的な活動を進めていきます。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査結果の分析

○国語

【知識及び技能】及び【思考力・判断力・表現力等】において、全体的に全国平均を上回っている。また、無回答率は、全国平均をほとんどの項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



【知識及び技能】

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項について、概ねできている。
- (2) 情報の扱い方に関する事項について、全国平均をやや下回り、課題がある。
- (3) 我が国の言語文化に関する事項について、概ねできているが、「行書の特徴を理解する」については、やや課題がある。

【思考力・判断力・表現力等】

- A 話すこと・聞くことについては、概ねできている。
- B 書くことについては、やや課題がある。
- C 読むことについては、概ねできている。

●国語における課題と今後の改善点について

○考えの根拠が明確になるように、資料から必要な情報を引用して意見文を書くことや、引用の仕方や出典の示し方について課題がある。
⇒自分の考えが伝わる文書を書くために自分の考えとそれを支える根拠とのつながりに留意し、工夫して書くことができるようにする。
○漢字の行書における「省略」、「連続」といった基本的な書き方について理解することに課題がある。
⇒漢字を行書で書く際には、点や画の形が丸みを帯びる場合があること、点や画の方向及び止め・はね・払いの形が変わる場合があること、点や画が連続したり省略されたりする場合があること、筆順が変わる場合があることなど、行書の特徴を理解して書くことができるようにする。

○数学

【知識及び技能】及び【思考力・判断力・表現力等】において、全体的に全国平均を上回っている。また、無回答率は、全国平均をすべての項目で下回っており、学習に対して意欲的な姿勢が結果に表れている。



【知識及び技能】

- (数 と 式) 全体的に概ねできているが、「一次関数の変化の割合の意味を理解している」については、全国平均と同程度である。
- (図 形) 「反例の意味を理解している」については、全国平均を上回っているが、課題がある。
- (関 数) 全国平均を上回っている。
- (データの活用) 「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」については、課題がある。

【思考力・判断力・表現力等】

- (数 と 式) 「結論が成り立つための前提を考え新たな事柄を見だし、説明することができる」については、全国平均と同程度である。
- (図 形) 「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」については、全国平均を上回っているが、課題がある。
- (関 数) 全国平均を上回っている。
- (データの活用) 「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」については、全国平均を上回っている。

●数学における課題と今後の改善点について

○箱ひげ図の意味的な理解や、箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることに課題がある。
⇒単なる用語として指導するのではなく、統計的に問題を解決する中で四分位範囲や箱ひげ図の必要性や意味を理解できるようにする。